

ロータリー
変化をもたらす

帯広西ロータリークラブ 会報

第2196回例会

2017.9.20



■RI第2500地区テーマ■

今こそ行動を！
 ークラブが元気になるために
 地区が元気であるために
 ーそして 私たちの未来のためにー



■クラブ・テーマ■

積極的に奉仕し、成長しよう

■会長報告

石原英樹 会長

皆さんこんにちは。

本日はガバナー公式訪問例会、成瀬ガバナーをお迎えしての例会です。当初7月の下旬に例会を予定していましたが、高松RC80周年への訪問により、日程調整をしていただき今回となりました。



成瀬ガバナーにおかれましては2500地区67クラブの内、当西クラブが65番目で残り2クラブとお聞きしております。大変お疲れのところ。そして2週間後に迫ってまいりました2500地区の地区大会。準備などで大変お忙しいところのご来訪。誠にありがたく感謝申し上げます。当クラブ35名の登録をさせていただきます。宜しくお願い致します。

本日、10時30分より会長・幹事懇談会、その後クラブ協議会で、ガバナーの豊富な経験・知識から当クラブへ貴重なご助言、素晴らしい講評をいただきました。今後のクラブ活動に役立てていきたいと思えます。

ハイライトよねやまより、8月26日熊本市内のホテルにて「世界米山学友による感謝in熊本」（主催：米山学友合同実行委員会）が開催され、世界18の国・地域からの奨学生と学友196人、ロータリアン204人、その他家族を含め総勢444人が参加したそうです。このイベントは米山奨学会設立50周年のお祝いに加え、今後、国内外の学友の横のつながりを持つために開催されたもので、式典会場において「世界米山学友会」が設立されました。次回2年後にはモンゴルで開催されるそうです。

米山記念奨学会を通じて、日本と世界を結ぶ人づくり、世界各国との横のつながりが更に進んで行けば良いと思います。

■会務報告

萱場誠一 幹事

①2017-18年度地区大会開催のご案内

日にち 10月6日(金)～7日(土)2日間

第1日目(10/6)

記念親睦ゴルフ大会 8:30～

オホーツクカントリークラブ

第2日目(10/7)

受付登録 8:30～ 網走市民会館

本会議 9:00～17:30

(昼食 12:00～13:00)

大会記念大懇親会 18:00～19:30

網走セントラルホテル

②帯広西RC、夜間例会開催のご案内

日 時 9月28日(木)午後6時30分

場 所 北海道ホテル

※当日は、アルコールが出ますので、飲まれる方は運転をお控えください。

③帯広北RC、9月29日(金)の例会は、休会と致します。

■ニコニコ献金

平田宗利 会員

成瀬 則之 ガバナー

スマイル

石原 英樹 会長

ガバナー公式訪問例会、ガバナーようこそおいいただきました。



会 長 石原 英樹
幹 事 萱場 誠一

副会長 佐々木嘉晃
副会長 小谷 典之

会場監督理事 立崎 貴之
プログラム委員理事 北川 勝啓

発行：広報委員会
委員長 柳沢 一元 (副)河西 智子



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)
 創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

柴田 和明 会員

祝ガバナー公式訪問

古田 敦則 会員

次男が司法試験に合格しました、本人の目標がかない親としてもホットしています。

奥 敏則 会員

いろいろとご迷惑をおかけしましたが足を骨折して戻って参りました。

久保 忠正 会員

明日6:30より正次郎さんで銘酒会を開催します。肴は松茸等のキノコがメインです。お待ちいたしております。

西藤 博之 会員

9/10の家族野遊会には会員、ご家族82名の参加を頂きました。ありがとうございました。12月の年末家族会も頑張ります。宜しくお願い致します。

辻田 茂生 会員

先週銀婚式を迎え、家内と小旅行に行ってきました。

平田 宗利 会員

ニコニコ発表します。

◇プログラム

「ガバナー講話」 成瀬 則之 ガバナー



皆さんこんにちは、本日は少しでも地区大会のPRをさせていただきたいと思えます。2月7日午後の特別記念講演、佐賀県の有田町から第十五代酒井田柿右衛門さんにお出で頂く事になりました。十四代のお父様、十三代お爺様共に人間国宝445年続いている窯元であります。皆さまご存知だと思われそうですが九州を一周する豪華列車「ななつ星」の洗面鉢作ったのが14代のお父様、そこに金魚の絵を描いたのが15代、只今49歳、去年15代を襲名したばかりでバリバリの方で非常に子煩悩な方なのですが今回は奥様それから二人のお子様共々網走に参るという事で非常に楽しみにしています。15代になって非常に悩んでいる事が一つあるそうで、代々当主になると必ずやらなければならない当主だけがもつ朱の色を創るとというのが当主に課せられた義務だそうです。今それで非常に悩んでいる所だとお聞きしました。この柿右衛門窯は、総勢90名の方がそこで働いていらっしゃいます。絵師がいます。ろくろを回す方がいます。そして当然薪をくべる方もいらっしゃいます。これが何代も続いて柿右衛門窯で従事している方。彼は経営者であります。トップであります。「ぜひ、貴方の経営哲学を皆さんの前でお話したい。我々は、ロータリアンとして全員が経営者であります。その中で貴方が持っている経営哲学を1つだけお話し願いたい」と言う中、「全くもって今そのようなことを考えている余裕はございません。次のニューヨークの博覧会まで何とか朱色を作っていかなければならないので、それだけのご勘弁」という中で、「5分でも良いからお話しをしていただきたい」ということで90分間のお話しを

させていただくことになりました。元々はカメラマン志望だったそうです。非常に上手なカメラワークで写真をお撮りになる。暇があるとお子さんを連れてカメラを持って山を歩くことが趣味だと聞いております。網走へ来たときに、柿右衛門窯の美しい伝統美とともに49歳の苦悩が深い、一生懸命悩んでいるその姿を見ていただければと思っています。「蛇足ですが、父の作品と私の作品を網走に持って行きたい」と。「それだけは勘弁して下さい」と申し上げました。日通がこの美術品・芸術品を運びますが、10日間ほどで、およそ〇百万円から〇千万円位かかるということで、とてもその保険料を払う訳には参りませんので、それはご勘弁をいただきたいということで映像を持って来ていただけることになりました。ぜひご覧になっていただきたいと思えます。少しPRをさせていただきました。

私は、活動計画書の最初に「ポリオに終止符を」と書かせていただきました。邵会長もポリオを強く書かれています。私自身それに強く関心を持っていた訳でもありません。RIの方から何かを言われた訳でもありませんが、自分のためになると思ってホームページをたくさん見ました。100数十クラブになると思えます。その中で、東京麴町ロータリークラブ。ここの回顧録というところに非常に胸を打たれた思いがありますので、これから少だけ皆さんにお付き合いをいただき、この話をさせていただきたいと思えます。

少々古い話ですが、1982年から始まるお話にお付き合いをいただきたいと思えます。1982年、東京麴町ロータリークラブの山田葬会員という方と、ドクターであります峰英二会員というお二人の会員がいらっしゃいます。

この2人、当時3Hプログラムということで、南インド・マドラスで、はしかの予防撲滅のためのボランティアとして4週間インドに滞在することになりました。お二人はインドで昼間、一生懸命そのはしかのために勢力的にいろいろな活動をされます。日が沈むころ、周りから「ガサゴソ」という音が少しずつ聞えて参ります。「何なのだろう」とお二人、多分カーテンを開けたかテントの窓などを開けたと思いますが、お二人は顔を見合わせて絶句をされます。当時、インドはポリオが大流行しておりました。もう凄まじい勢いで蔓延しておりました。先ほどの「ガサゴソ」という音は、幼児が、足が動かないので肘を使って前に進む音、その音だったのであります。そのような子があちらこちらで音を立てて動いている姿、それを見たときに胸が締めつけられる思いがした。2人はショックのあまり、しばらくその光景から目を離すことができなかつた。と手記に書かれています。4週間のボランティアを終了してお二人は帰国されます。

次の年1983年、東京麹町ロータリークラブが15周年を迎えます。この記念事業で会長及び理事会に強くこのお二人が示唆をして「何とかポリオワクチンを集めていただきたい。私達はそれを持ってインドの子供たちを助けに参りたい」と強く申しました。東京麹町ロータリークラブは了解をしたそうです。私は、ポリオワクチンがどこで売っているのか、お幾らくらいするのか存じあげませんが、相当高額だと思います。東京麹町ロータリークラブは5,000人分のポリオワクチンを購入したそうです。それを持ってお二人がまた南インド・マドラスへ参ります。当時は、マドラスロータリークラブの方が支援をされていました。1ヶ月間ほとんど不眠不休、24時間体制でお二人は子供たちにワクチンを経口服用させます。起きているのか、寝ているのか、生きているのか、死んでいるのかよく分からないけれども、手だけが、腕だけが子供たちを助けたい一心で動いた。と手記には書いてあります。1か月間その生活が続きました。帰りの飛行機の中でぐったりと死んだようになっているお二人を多くの乗客の方が見ていたそうです。

帰って来たとき、麹町ロータリークラブは、RIにその報告をされます。RIがとった措置。その当時、世界社会奉仕事業が各国で数百行われていたそうです。私はその辺の事情はよく分かりません。いろいろなプロジェクトが行われていたそうです。その中で、このインドでのポリオ撲滅、このことが優先順位一番ということで認定をされたそうです。

その後、RIは、もうひとつ、このことに関して、当時では異例の決定をされました。1986年7月1日～1991年6月30日までの向こう5年間に亘って募金キャンペーンを始めました。ポリオ撲滅と5つの伝染病、例えば、百日咳・

はしか・ジフテリアなどを全て地球上から無くすということが目的で募金キャンペーンをされました。「総額、世界中で1億2,000万ドルを5年間かけて集めたい」という指示がRIの理事会でされたそうです。

私は、網走ロータリークラブ、2代目のガバナーであります。初代のガバナーは、1987年～88年の秋永智徳という方です。ちょうどこの方がすっぱりこのキャンペーンの間に挟まっています。ご本人から直接お聞きした訳ではありませんので、RIの方なのかどうかは分かりませんが、相当な締めつけ「これだけ集めてくれ」という凄まじいお達しが出ていたそうです。結果、日本国内では、48億9,000万円という浄財が集められました。世界中ではどうかと言いますと、1億2,000万ドルのRIの募金額に対して2億1,700万ドルという浄財が集められました。当時としてはもの凄まじい額だったと私は思います。

本日、中標津ロータリークラブへ行ったときに、笹谷さんにお聞きしましたが、いまポリオ常在国は2カ国。1980年代このポリオ常在国がどの程度あったかご承知でしょうか。1980年代は125カ国ございました。毎年毎年35万人の子供たちがポリオに苦しめられていました。犠牲になっていました。インドでの彼らの手記の中にこのような一節があります。「ポリオで子供たちを救えない母親がいた。日本でいう姥捨て山。子供を捨てなければならない母親、それを泣く泣く背負ってどこかへやっている父親がいた。」そうです。ポリオは治らないと当時は思われていたみたいです。ただ日本人がポリオに対し経口ワクチンを持って行ったので、少しだけ子供たちがポリオに罹らなくて済みましたが、当時は、いろいろな国でポリオが蔓延しておりました。お話しは1988年に少し戻させていただきます。1988年東京麹町ロータリークラブは、栄えある20周年を迎えます。その栄えある会長職に就いたのがこの山田彝会員であります。ところが、急死されます。同行したドクターの峰英二会員も後を追うように他界されました。回顧録の最後の行にこのような一文がございます。「志半ばにしてインドでの風土病が元でお亡くなりになられたお二人、まさしく壮絶な戦死のようなものである」そのようにしてこの回顧録はとじています。

ぜひ、東京麹町ロータリークラブのこの回顧録にアクセスしてみてください。私はそれを涙なくして読めませんでした。いま、言っているときには、それほどそのような感情はありませんが、それを最初に目にしたときに、非常に胸が熱くなる思いがいたしました。RIはいま、いろいろなことを行っております。いまだにポリオに関してはいろいろなことを行っております。ただRIに先駆けて、まずポリオから子供たちを救いたい、という情熱を持った日本人がお二人いた。この事実だけは、これから私達が残して行かなければならない。この意志だけは私達が継ぐべきであ

る。こんな日本人がいたことを忘れてはいけない。きちんと次の世代に伝えたいと思いまして今回、「ポリオに終止符を」と最初に書かせていただきました。多分、私達がいまできることは浄財を集めることくらいしかないと思います。ただ、そのときに世界中の子供たち、幼児・乳児、この子達にポリオという恐怖を絶対に与えてはいけないという気持ちを持って寄付を推進したいと私は思いました。財団委員会の後押しになったかどうかは分かりませんが、この思いだけは持って、私は1年間この話をさせていただきます。どうぞ財団委員会の方、このようなお話しがあって、皆さん東京麹町ロータリークラブにアクセスしていただき、その思いだけは汲み取って寄付をしていただきたいと思います。こちらにいらっしゃるガバナー補佐、ポリオプラス委員会に属しております。寄付をお願いし上がる時が来ると思います、その時は是非笑顔で寄付をして頂きたいと思っております。

もう一つゾーンの再編成の話させていただきます。これは2017年1月のRIの理事会で決定したのですが、世界には539の地区がございます、これが34のゾーンに分かれています。日本は34地区3つのゾーンを持っていました。大まかに分けて北海道、東北、北関東、北陸の一部、これが第一ゾーンです、そして東京から大阪の東これが第二ゾーンです、大阪、伊勢これが第三ゾーンで今まで三つのゾーンを日本だけが持っていました。この三つのゾーンが何故必要なのかというのは、RIの理事という事を考えると解りやすいと思っております。日本は必ず今RIの理事が二人ずついらっしゃいます。現RI理事、2016から2018年度、斉藤直美さん、愛知、豊田ロータリークラブこの方は第二ゾーンの方です、そして次の2017、19年度の理事が山形、鶴岡西ロータリークラブの石黒慶一さん、そして今エレクトになっているのが兵庫の三木明さん、というふうにこの三ゾーンを形成しているが為に日本はこの二人ずつが重なって理事になれるというところだったので、1月の理事会でどのように決定されたかといいますと、北関東、北陸が第二ゾーンに移ります、三重が第三ゾーンに移ります、という事は北海道と東北それと北陸の一部、それしか第一ゾーンに残りません。

その結果、バングラディッシュ、インドネシア、パキスタンこの六地区が第一ゾーン組み込まれる事が正式に決定致しました。これは結構問題が大きいと思っております。一つのゾーンを形成するのに大体35000人の会員が必要だそうです。第二ゾーン、第三ゾーンは36000人で第一ゾーンの35000人を大きく上回っているのですが、我々の第一ゾーンはこの三カ国を加えても31140人しかいません、という事は35000人に足りません。世界中にはどこのゾーンにも属していない国が結構あるそうです、そのような所がこのゾーンに組み込まれるという可能性がないとも言いきれない、そうなると第一ゾーンからますます理事が出しにくくなるというのが事実の様です。日本で先日行われた会議の中で会員増強しましょうというお話があり、4000人増やしましょう、35000人に戻しましょうという様なお話がありましたが仮に4000人増やして35000人になったとしてもゾーンの編成というのは8年事にしか行われないのでこれから8年間というのはこのゾーンのままという事になります。この三カ国が第一ゾーンに組み込まれてそれと私たちが一緒にやらなければならないという事になります。今までは東京辺りでゾーンの会議をやっておりましたが、例えば違う国でゾーン会議が行われる可能性もあります。これは結構問題が大きいのではないかと考えております。

先ほどのクラブ協議会でも申し上げました通り、ロータリーの公式訪問は心を求める旅だという風にかかせて頂きました。色々な方とお話をした中、双方向で色々な事を解決出来るそんなガバナーになれたらいいなと思っております。あと2クラブ、清里ロータリークラブと私の網走ロータリークラブを残すだけとなりました、色々なお話を聞かせてもらい私自身とても役に立ったと思っておりますし、このクラブが国際奉仕という事ではかなり先進的なクラブである事も初めて解りました、そんな中で色々な事を考えて双方向上手くいく様に、2500地区全てのクラブが上を向いていける様にこれからも精進していきたいと思っております。御清聴ありがとうございました。

会長謝辞

石原英樹 会長



成瀬ガバナーお話ししていただきありがとうございました。ポリオのお話初めてお伺いしてそういう経緯があったのかと驚いて涙がウルッときました。パナーを見ますと東京麹町のバナーがあり、また麹町に行った時に今日のお話を提供してもいいのではないかと思います。訪ねようロータリーというのが私も方針として出していますが、中々私自身出張が多いのですがすぐに帯広に帰ってきたくなくてし

まいメイキャップしていないので今後出張の際は例会に顔を出したいと思っております。

10月の地区大会35名参加します。今回のクラブ協議会、例会でのいいお話聞かせていただきました、また地区大会でも期待をしております。

まだまだ今年度続く訳で体に御留意されて活躍をしていただきたいと思います。簡単ではありますが謝辞と致します、ありがとうございました。